

双ヶ丘中だより



京都市立双ヶ丘中学校 2/28 第17号 文責 上田
学校教育目標 「探究心を持って未来を創造し、心豊かにたくましく生き抜く生徒の育成」

令和3年度も残り1か月

令和3年度も、残り1か月となりました。今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校教育にもかなりの制限があり、生徒たちにとっては大変厳しかった令和3年度も、残すところあとひと月となります。現在も「まん延防止等重点措置」が延長され、3学期は部活動も中止となり、放課後は生徒の姿がない学校の状況が何かあたり前ようになってきているように感じます。しかし生徒たちは、このような状況においても、今年度の締めくくりとして学年末テストも終了し、それぞれのまとめの時期になっています。

学校行事においては感染対策を講じながら工夫をして実施できたもの、中止せざるを得なかったもの、学習においても感染の影響で、オンライン授業を受けなければならないなど、生徒等たちにとっては本当に大変な1年であったと思います。残り期間は短いですが、少しでもこの締めくくりに間に、普通の学校生活が戻ってくることを願っています。

さて3年生は、進路実現に向け、公立中期選抜が迫ってきました。受検する人は、まだ少し緊張していると思いますが、今までやってきたことをもう一度見直し、自分の力が100%出せるように準備をお願いします。受検が終了すれば15日の卒業式に向け、中学校生活の締めくくりをしっかりとお願いします。

1・2年生は、3年生を送る会の準備と1年間のまとめと合わせて、学年が1つ上る心の準備をし、18日の修了式が迎えらえるようにお願いします。

「しなやかな道徳」研究推進の報告

令和2・3年度の2年間、京都市教育委員会より「しなやかな道徳」の指定を受け

主題を「様々な道徳的課題を自分事としてとらえ、考え、議論する道徳教育の実践」として研究を進めてきました。1月28日に研究発表会を予定し、授業の公開及び取組の報告を行う予定でしたが、コロナ禍の状況を考慮し中止といたしました。

先日、校内研修の形で公開授業を予定していた1年生の道徳の授業を行いました。主題「誰もが気持ちよく過ごせる社会を目指して」 教材「ゴミ箱をもっと増やして」という内容で、生徒一人一人が考え、それぞれの思いをまとめてくれました。（一部を紹介します）

- ・道端に捨てられているごみを拾うのは「汚いからな…」とってしまう。だから、これから、みんなが「ここに捨てたら嫌な思いするかな」と人のことを考えることも大事なな。
- ・世界にはいろんな人がいるし「ごみは持ち帰る」という認識を常にだれかが持つというのは難しいことなのかなと思った。だからまずは自分から美しい環境を未来へつなぐためにも意識していきたい。
- ・ものとかに頼るのではなくしっかり意識などを持つことが大事だとわかりました。行動も起こせるようにしてみたいです。
- ・この授業で、今まで意識して見ていなかったのがごみのポイ捨ては気にしてなかったし、ゴミ箱をふやすかどうかというのも気にしてなかったけど、大切なことだなと気づきました。ごみを拾うのは無理だとしても、一人一人が心がけて捨てられているごみをこれ以上増やさないよう努力していけばいいと思います。これからは持ち帰る努力をしながら、人に注意したりしていきたいです。

授業を担当した教員も、同じ問いかけをしても、生徒がそれぞれ異なる点で思慮を深めていたことなど道徳の難しさや深さを感じたようであった。授業後には、生徒から「ゴミ拾いのボランティア活動はしないのか」また、「私は賛成なのに、●●さんは、なんで反対なのかな」など、生徒たちから何かしらの考える機会を投じることができたので良かったとの報告もありました。

来年度以降もこれまでの研究を生かし、道徳の授業に改善を進めていきたいと思っています。

（裏面に3月の行事予定をのせております。ご覧ください。）＊コロナの状況により、変更する場合があります。